

〔日 時〕 令和2年11月26日（木）14：00～15：30

〔場 所〕 ハピネスふくちやま 会議室2

〔出席者〕 委員…7人、事務局…4人、傍聴者…3人

■内容

1 開会

2 挨拶（櫻井部長）

3 委員紹介及び事務局紹介

4 委員長・副委員長選出

→ 富野委員の委員長就任を承認

→ 足立委員の副委員長就任を承認（副委員長については会議終盤で選出）

5 議題

（1）委員会の主旨、第1期委員会のまとめ

（松井係長）

【資料1】により、①条例制定の目的②委員会の主旨について説明。

- ・ 主に「条例が時代に則したものか」「市の施策が条例に沿って行われているか」「市民参画がされているか」について検証していただく。

【資料2】により、第1期委員会で話し合った内容について説明。

（富野委員長）

- ・ この委員会は、日常生活や地域活動の課題を直接、解決する委員会ではない。「市民参画が進んでいるのか」について検証していく。また、その上で、「参画を進めるためにはどうしたらよいか」を考えていく。
- ・ 第1期の活動の中では、市民には普段見えない審議会について市民が参加できることが見込めるかを検証してきた。その上で、委員会として市民公募ができていない審議会について、公募するべきではないか提言してきた。

（2）日常生活、地域活動における疑問や課題

（富野委員長）

- ・ 日ごろの地域活動中で感じられている課題などを話していただきたい。条例を気にせず話してもらう中で、必ず条例と結びつく点が出てくる。条例全てを検証していくことは難しいので、そこから、今後みなさんで話し合うべきテーマを絞っていきたい。

（足立副委員長）

- ・ コロナウイルスの関係で6月から子育て関係の施設を再開したが、今までと違うやり方を求められている。その中で、LINEによる子育て相談が増えている。

- ・ 産後1歳未満の母親への支援を強く感じる。なかなか、外にも出れないから、しんどさを他の人にさせなかったりする。コロナで実家に帰れない、相談できる人がいないといったことが精神状況に影響を与えている。

(松下委員)

- ・ 三和荘の指定管理を考える上で市の施策にかかる情報を新聞で初めて知ったということがあった。施策を考える時点から地域の人間として参画をできないものか。三和荘に限らず、診療所や包括ケアなどにおいても。
- ・ また、子育ての施策を考える会議にも、若い世代のお母さん方が入ることができたらいいなと思う。

(富野委員長)

- ・ 第11条(情報共有)や、第14条(説明責任)にかかる部分と関わりがあるように感じる。
- ・ 松下委員としては、突然話が湧いて出てきたという感覚なんだと思うので、実際のそういった部分の解消も必要かと思う。

(谷垣委員)

- ・ 自治基本条例についてはPR不足で、市民に浸透していない。
- ・ まちづくりには、活性化、福祉、教育などいろいろな観点がある。
- ・ 駅前の地域においては、日中は、地域住民よりも企業の人が多い。そういった企業の人をどう巻き込むかも大切だと思う。企業の人とまちづくりを進めていくことも必要と考える。市内に住んでいない人も含めて。

(富野委員長)

- ・ 第2条において、「市民」については、通勤している人も含めているなど広い範囲で定義づけている。福知山市は、昼間人口が多い地域で、市外から通勤、通学している人が多い。条例に定めているからには、これらの人を含めたまちづくりを考える必要がある。

(夜久委員)

- ・ 自分の住んでいる場所を誇りに思うし、自分が楽しむために地域活動に参加してきた。次の世代に活動をつなぐことが大切。
- ・ 一緒に汗を流した子どもたちがいることは、本当に地域に住むものとして安心である。
- ・ イベントにかかる予算が削られているのは心配。いろいろ工夫しているが節約しているが、先立つものは必要。みんなが参加できるイベント運営ができることで、若者も準備から参加する。地域の未来への投資(支援)と考えて欲しい。

(富野委員長)

- ・ 活動上どうしてもお金は必要だが、基本的には市としても絞っていかないといけない現状はある。そのような状況であることから、市民と一緒にお金の使い方を考えることが大切になってくると思う。

(西山委員)

- ・ 自治会長として2年目になるが、課題としては、若い人たちへの世代交代が必要だと思っている。若い発想で活動をしていくことが求められている。
若い世代が入ったことで情報発信のスピードが上がったが、その反面高齢者にもこれからどう対応していくかも一緒に考えないといけない

- ・ コロナ禍の中ではあったが、新たなことをしてみた。①85歳以上への地域からのお祝い、②活動の応援（サロンなど）

（富野委員長）

- ・ これから自治会活動についても、小さい単位でできないことも増えてくる。自治会でやること、地域協議会でやることなど明確に分けて、負担を減らしながら活動の継続性が見込めるようになるのではないだろうか。

（堀委員）

- ・ 各地域で地域づくり組織が立ち上がっている。中六人部でもワークショップで課題の共有をしてきて、本年度より活動が開始された。開始のときは盛り上がるが、この活動が継続されていくかは心配している。

（富野委員長）

- ・ 地域づくりは、地域のみなさんの活動あつてのもの。行政はそれを支援する立場である。その状況の中に見直す点があるのなら、そういった地域づくり組織に焦点をあてるのもよい。

（堀委員）

- ・ コロナによって自治会の集まりがほとんどなくなってしまった。情報の共有が文書だけになり、結局は一方通行になっている。そういった議論の場がないことが閉塞感を生んでいるように感じる。
- ・ 情報共有は、地域活動の中で大切であり、それをしながらまちづくりは進んでいく。

（富野委員長）

- ・ 集まっただけの情報共有や意見交換は、今後もなかなか難しい状況にはある。集まらずに、情報を交換できる仕組みを考えることが必要。

（富野委員長）

- ・ 様々な意見を出していただいた中で、テーマを絞るにあたり一旦、事務局でリスト化してもらおうと思う。その上で、「これをやってみたい」と思うものを考えていきたいと思う。

6 閉会

■まとめ

- ・ 委員長及び副委員長の就任
富野委員長、足立副委員長
- ・ 委員会の主旨、目的の共通確認
- ・ 今後の進め方のイメージ形成

今回の話から、事務局で次回以降の話し合いのテーマ（複数）をまとめ、順に取り上げて話し合っていく。